

伊方町議会第 8 5 回定例会に係る一般質問通告内容

質問者	質問の大綱	質問の相手
末光 勝幸 議員	1 伊方町財政運営について	町 長
質問の要旨		
高市内閣総理大臣は「日本列島を強く豊かに。」47 都道府県のどこに住んでいても、安全に生活することができ、必要な医療や福祉や、高度な教育を受けることができ、働く場所がある。若者たちが日本に生まれたことを誇りに感じ、「未来は明るい」と自信を持って言える、そうした国を創り上げると提唱されています。 現在の伊方町の現状はどうでしょうか。交通事情の不便さや、福祉や医療に多くの町民の不満が聞かれます。伊方町の人口は 25 年の国勢調査で 7,077 人。令和 8 年度の一般会計予算は約 102 億円となっています。他の市町村に比べると「伊方町は財源が豊かだ」と言われます。近隣の市町村と令和 8 年度の一般会計予算で比較してみますと、八幡浜市 272 億円（28,473 人）、西予市 283 億円（31,551 人）、松前町 137 億円（29,004 人）、松野町 41 億円（3,312 人）となっています。 財務省が普通交付税の目安とする基準財政需要額は、地方団体における個々具体的な財政支出の実態を勘案して、その地方団体地方団体の自然的・地理的・社会的諸条件に対応する合理的でかつ妥当な水準における財政需要です。令和 6 年度の数値で伊方町が 47 億円、八幡浜市 111 億円、西予市 151 億円、松前町 64 億円、松野町 24 億円となります。松野町の基準財政の 1.71 倍に比べ、伊方町は 2.17 倍となります。 伊方町のキャッチコピーが「よろこびの風薫るまち伊方」から「長く永く幸せ感じる伊方町」に変わりました。財政規模に応じた幸せを町民は実感しているのでしょうか。 予算を人口一人あたりでみると、伊方町 144 万円、八幡浜市 96 万円、西予市 90 万円、松野町 124 万円、松山市の隣の松前町は 47 万円となります。こういった数字からすると、伊方町民は予算上では他の市や町より手厚いといえます。 予算の執行内容は市町村の事情により異なりますが、例えば、一般職員の一人あたり平均給与月額が伊方町 28 万 1 千円（令和 6 年度）、松野町 29 万 5 千円（令和 6 年度）となり、伊方町のラスパイレース指数も改善されてきていますが、95.7 となっています。 これらは一つの例ですが、子育て支援などは町長が尽力されて、かなり充実しているとは思いますが。それでも人口の減少率は 15.7%と県下最大です。生まれる新生児は 10 人程度が現状です。 予算の費用対効果とはよくいわれます。最近では、スマートシュリンク（賢く縮む）ということがいわれるようになりました。公共施設やインフラの集約人口減少を前提として、まちづくりの方向を修正してきています。 伊方町はポテンシャルの高い町で、やればできる町だと私は思っていますが、私		

の議員としての平成 29 年度の一般質問で「無電柱化への取組みについて」を提言しましたが伊方町では、その一部でも実現できていません。八幡浜市では駅前で整備されています。平成 30 年度に交通弱者対策として自動運転バスを提言しましたが実現せず、県内でも松山市、伊予市、八幡浜市では進んでいます。

社会がどんどん変化していく中で、行政の財政は何億何千万単位でも、町民の家計は一円単位です。維新の会の馬場前代表は「一円たりとも税金は無駄遣いしない」と語っていましたが、伊方町として今後どのような町づくりに、財政運営をしていくつもりなのか、町長の所見をお伺い致します。